

## 中国語の“是”構文における“(一)个NP”について

王亜新 (東洋大学)

### 1. 先行研究

#### 1) 大河内康憲 (1985) 「量詞の個体化機能」

中国語の名詞は「非可算」的で、“(一)个”の使用によって「具体性」や「個別性」を獲得する。“(一)个”は、「実数」と「非実数」の両方を表し、非実数の場合は、対象を「不定化・個体化」し、「個別の観念を与え、抽象的なものを具体化するために働いている」。一方、「裸の名詞は、輪郭を持たない抽象的なものを表している”。“(一)个”と「裸の名詞」は「定・不定」と「特定・非特定」では、次のような関係を持っている。

裸の名詞	(I) specific で definite
	(II) generic
〈一个〉名詞	(=) specific で indefinite

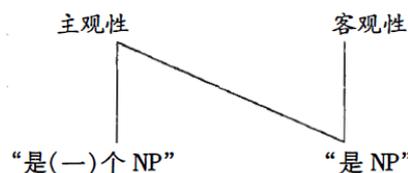
#### 2) 中川正之・李浚哲 (1997) 「日中両国語における数量表現」

名詞の使用では、日本語は「単数趣向」で、中国語は「複数趣向」なので、中国語では複数を避けるために“一个”が使用されている。名詞は「大・小・高・低・重・軽」のような、外形・量的(可視的)側面をいうものには“(一)个”を補うことが多いが、内容・質的側面をいうものには“(一)个”を補うことは少ない。一般的に「描写的」な叙述には“(一)个”が必要である。

#### 3) 张伯江・李珍明 (2002) 「“是NP”和“是(一)个NP”」

中国語の判断文において、ほとんどの名詞(头衔类名詞、职业类名詞、性质类名詞)が自由に“(一)个”をつけられるが、「個別性(唯一性)」が強い名詞(固有名詞に相当)は“(一)个”を排斥する。判断文は、「事件句(事象叙述)」と「非事件句(属性叙述)」の2種類に分けられ、「事件句」では、大河内康憲(1985)が指摘した「個体化」機能に関わるが、「非事件句」では関わらない。一般的に、描写性または制限性の高い定語を伴う場合は“(一)个”が必要であるが、客観的陳述の場合は“(一)个”は必要でない。

“(一)个”の使用は、統語的現象ではなく、語用論的現象である。“是(一)个NP”は、1) 心理・認知動詞(觉得、认为、怀疑、相信など)、2) 仮設と推測動詞、3) 主観的評価を表す修飾語、と共起しやすいが、それに対して、4) “是NP”は客観的評価を表す。“是(一)个NP”と“是NP”には次のような違いが見られる。



#### 4) 安井二美子 (2003) 「“是 (一) 个 N” の認知言語学的アプローチ」

“是 (一) 个 N” は、1) コントラストの導入、2) 連体修飾語の導入、3) 前後文の導入、などの文脈条件によってその成立が保障される。

“S 是 N” は「S は N に含まれる (S ∈ N)」、 “S 是 (一) 个 NP” は「S はある属性を持つ 1 個の N に等しい (S = N)」という公式が成立する。聞き手は前者によって S を集合体 N の成員として認識し、後者は S を一個の N に同定するという作業を行う。

数量詞には、a) 数量表示、b) 不定表示、c) 属性表示、という 3 つの機能があり、a) と b) は新情報を導入する際に必要であるが、c) は類別詞に必要な要素である。“是 (一) 个 NP” では、「属性表示」という機能が強く働き、その「属性」は連体修飾語、前後の文脈、一般常識、社会通念などを参照することにより認知され、“个” は「属性」にアクセスするためのものである。

#### 5) 杉村博文 (2002a) 〈论现代汉语“把”字句“把”的宾语带量词“个”〉

（“把个老汉感动得简直不知说什么好了。” 中の）“老汉” 带上“个” 变成了一个“无定”成分，是因为说话人把它还原成一个类名而对它进行重新认识的结果。而类化的目的在于激活社会常识或语言环境赋予“老汉”在情理之中的属性（比如老汉是“饱经人间沧桑、不容易动感情的”等），以此来跟谓语“感动得不知说什么好了”形成鲜明的对比，从而收到表示超出常情、常理的语用效果。我们把这种存在于情理之中的 N 的属性称为“情理值”。

#### 杉村博文 (2006) 〈量词“个”的文化属性激活功能和语义的动态理解〉

“个” 虽然属于个体量词，但就其功能来说，它首先是为了表示事物的无定性而存在，其次是为了激活事物不属于百科全书式知识的某种属性（文化属性）而存在的 (p18)。……个体量词产生于事物固有的、最为典型的特点和性质，因此我们就可以反过来通过使用个体量词来激活事物固有的、最为典型的特点和性质 (p19)。

#### 6) 唐翠菊 (2005) 〈“是”字句宾语中“（一）个”的隐现问题〉

当宾位成分代表旧信息时，“（一）个”的隐现是不自由的，发话人一般采用“是 NP”的格式；当宾位成分代表新信息时，“（一）个”的隐现则比较自由，虽然以“是（一）个 NP”的格式居多，但也不排斥“是 NP”的格式。“是”字句宾语中“（一）个”的自由隐现与非自由隐现并存的现象是“（一）个”尚未彻底语法化的具体表现。

## 2. 「（一）个」と「外的特徴」

“一个”の基本機能は、数量詞本来の「計数」機能に由来し、「不定」や「個体化」などを表す機能もそれに起因する。「数量」は、物事の「外的（物的）特徴」なので、名詞の外延的概念から対象を捉えている現象である。

“（一）个 NP”による計数機能は、「単一個体」と「任意個体」の二つに分けられ、“是”構文以外の構文にも広く観察される。

- (1) a. 他看了 (一) 本书。 (ふつうの文脈では「単一個体」を表す)  
b. 他想看 (一) 本书。 (ふつうの文脈では「任意個体」を表す)

両者の共通点は「不定の個体」を表すところにあるが、次の点では異なっている。

- (1a) a. 単一個体      b. 実存する個体      c. 外延的      = 某一本书  
(1b) a. 任意個体      b. 存在可能な個体      c. 内包的      = 任意一本书

一般的に、物事の外的特徴(中川 1997 では「外形(可視)的側面」)が顕著な場合は“(一)个”が必要になる。

- (2) a. 东方升起一轮红日。 (\*东方升起红日)  
b. ?东方升起一个太阳。 (\*东方升起太阳)  
c. 假如我是一个太阳。 (?假如我是太阳) (中小作文网 2012.2)

「太陽」は唯一対象であるが、(2a)では「映像(可視)」的に捉えているので、“一轮”は必須である。(2b)の“一个太阳”は映像的に捉えていないので、太陽の「唯一性」により“(一)个”が排斥されることになる。(2c)の“太阳”は外延と切り離れた比喩的用法(内包の抽出)なので“一个”の使用が必要である。

- (3) a. 山谷底下，乱石堆里躺着一个人，骨瘦如柴，白发苍苍。(事象叙述、単一個体)  
→ \*乱石堆里躺着人  
b. 你是一个真正的好旋工，有前途的，将来干这码子事? (属性叙述、任意個体)  
→ 你是真正的好旋工 (大河内康憲 1985:5)

対象は「映像(可視)」的に捉えられる場合、「具体的、実存的、外延的」などの特徴を伴うので“(一)个”の使用が求められる。また、その使用によって「映像(可視)」化された効果がもたらされる。

- (4) a. 这是一件雪白的衬衫。 (可視的、具体的、外延的、事象叙述)  
b. ?这是雪白的衬衫。  
(5) a. (拿出来一看)是一件衬衫。 (“一个 NP”は新情報を表す)  
b. (拿出来一看)?是衬衫。 (NPは旧情報なら可能)  
(6) a. 他是一个又高又瘦的青年。 (外見による場合は“一个”が必要)  
b. ?他是又高又瘦的青年。  
(7) a 他是一个高个子。 (外見による場合は可視的。事象叙述)  
b. 他是(一个)高个子。 (内包から捉える場合は非可視的。属性叙述)  
(8) a. 他是一个 30 岁左右的年轻人。 → ?他是 30 岁左右的年轻人。  
b. 他是一个年轻人。 (外見と内包の両方から解釈可能)

(7a)の文脈では“(一)个”が必要であるが、(7b)の文脈でも“(一)个”は排斥されないため、「事象叙述」と「属性叙述」の両方に対応することが可能である。(8a)も初対面の人として“他”を捉える場合は“(一)个”が必要である。(8b)は「事象叙述」と「属性叙述」の両方に対応可能であるが、“一个”を伴った場合はより「映像」的である。

NPが新しい対象として導入される際、「“是(一)个 NP”的格式居多」(唐翠菊 2005)なのは、外見(外延)から対象(の存在)を捉える文脈に関係していると考えられる。

また、張伯江・李珍明(2002)が扱っている「心理・認知動詞に共起し、話し手の主観的な感覚を表す」例の中にも「外見」や「外的特徴」によるものが多く含まれる。

- (9) a. 自己只是个傻大黑粗的废物。(\*是傻大黑粗的废物) [外的特徴]  
b. 老者又细细看了祥子一番，觉得他绝不是个匪类。( ?绝不是匪类) [外見]  
c. 在他的眼里，她是个最美的女子，美在骨头里，就是她满身都长了疮，把皮内都烂掉，在他心中她仍然很美。( ?是最美的女子) [外見+外的特徴]

### 3. 名詞句の「役割」と「値」

坂原茂（1990）などでは、コンピュータ文における主語 NP の「役割解釈」と「値解釈」の二つの機能を指摘している。坂原は Fauconnier（1985）の例について次のように説明している。

- (10) In 1929, the president was a baby.  
1929 年には、大統領は赤ん坊であった。

「大統領」が「値解釈」（実体）の場合、「赤ん坊」が属性叙述を表すが、「大統領」は「役割解釈」の場合、「赤ん坊」は不特定の実体を表す。（坂原茂 1990 : 40）

中国語では、

- (11) a. 1929 年，（现在的）总统（还）是一个孩子。[属性] （→ 是孩子）  
b. 1929 年，（当时的）总统是一个孩子。 [指定] （→\*是孩子）

(11a) では、述語 NP が属性を表すので“一个”は省略可能であるが、(11b) では、述語 NP が「実体（値）」を求めるので“(一) 个”が必須である。次の例も同様。

- (12) a. （当年的）村支书是一个年轻人。 （村支书＝役割、年轻人＝実体）  
→\*当年的村支书是年轻人。  
b. 村支书（当年）是一个年轻人。 （村支书＝値、 年轻人＝属性）  
→ 村支书（当年）是年轻人。  
(13) a. （当年的）村支书是一个老实人。 （→\*是老实人）  
b. （当年的）村支书是一个很老实的人。 （→\*是很老实的人）

主語 NP が「役割解釈」の場合、述語 NP は「実体（外延的概念）」を求めるので“(一) 个”が必須である。この意味関係では、述語 NP に「外的特徴」を伴わなくても、(13) のように“(一) 个”が必要である。

述語 NP が固有名詞の場合でも類似した現象が観察される。

- (14) A1 : 中国出了一个毛泽东。 a. 毛泽东本人（値）  
b. 一个叫毛泽东的人（役割）  
B1 : a. \*谁是毛泽东（本人）？ / \*毛泽东（本人）是谁？  
b. 谁是（这个叫）毛泽东（的人）？ / （这个叫）毛泽东（的）是谁？  
A2 : a （毛泽东是）一个湖南人。 / \*（是）湖南人。  
b （是）中国共产党的创始人。（唯一対象として捉える場合）

呂叔湘（1985）では“谁是张老三？”と“张老三是谁？”との違いについて、“谁是张老三？”は二通りの解釈が可能であるが、“张老三是谁？”は一通りの解釈のみ可能であると指摘している。

- (15) 谁是张三? → a. 张三是怎么个人?  
 → b. 哪个人是张三?  
 (16) 张三是谁? → a. 张三是怎么个人?

杉村博文 (2002b) では、判断文 (A是B) は「既可以表示“成素”与“类”的关系 ( $A \in B$ ), 也可以表示同一关系 ( $A=B$ )」とし、“谁是张三?” において“谁”と“张三”は同一関係で、“成素”と“类”の関係にならない。それに対して、“张三是谁?” では“ $A=B$ ”と“ $A \in B$ ”の両方の意味を表すことができる、としている。

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| (1) a. 张三就是那个人。         | A=B         |
| b. 那个人就是张三。             | B=A         |
| (2) a. 张三就是那几封匿名信的作者。   | A=B         |
| b. 那几封匿名信的作者就是张三。       | B=A         |
| (3) a. 张三是农民。           | $A \in B$   |
| b. *农民是张三。 <sup>③</sup> | * $B \in A$ |

(杉村博文 2002b 用例)

ただし、上記 (16) “张三是谁?” に対して、“张三是农民” という答えは不自然である。“张三是谁?” は (14) の B1 と同じく、“张三” に同定できない場合に用いられる質問なので、“张三” は「役割解釈」とするのが普通である。

- (17) A1: 今天张三来了。  
 B1: a. 谁是张三 (= 这个叫张三的)?  
 b. 张三 (= 这个叫张三的) 是谁?  
 A2: a. (张三) 就是那几封匿名信的作者。 (特定个体への同定)  
 b. (张三) 是一个农民。 (不定个体への同定)  
 c. ?(张三) 是农民。 (帰属関係)

(17) の A2a の“那几封匿名信的作者”と A2b の“一个农民”は同じく「対象指示」を表し、特定个体か不定个体かの点で異なっているのである。そのため、A2b には“(一) 个”が必要である。

“张三是谁?” は必ずしも“张三是什么人?” と同義ではない。むしろ“张三是个人什么人 (怎么个人)” と同義である場合がある。つまり、“是 NP” と“是一个 NP” の違いに同様、“是什么人” と“是个什么人” も実際は異なった機能を果たしているのである。

- (18) 谁 (哪个人) 是张三? [現場での同定; 张三是役割解釈]  
 —— 他是张三。 / 他 (就) 是。 / (是) 他。  
 (19) 谁是张三? [属性主への同定; 张三是役割解釈]  
 —— 张三是 (一) 个农民。 / (主語省略) (是) 个农民。 → \* (是) 农民。  
 (20) 张三是谁? (= 张三是个什么人?) [属性主への同定; 张三是役割解釈]  
 —— 张三是 (一) 个农民。 / (主語省略) (是) 个农民。 → \* (是) 农民。  
 (21) 张三是干什么的? (张三是什么人?) [属性を求める; 张三是値解釈]  
 —— 张三是农民。 / (主語省略) (是) 农民。 → (是) 个农民。

(19) (20) の述語 NP には“(一) 个”が必須である。

#### 4. “是”構文の意味関係と構文機能

##### 4. 1. 意味関係

呂叔湘主編（1999：496）《現代漢語八百詞》では、“名詞＋是＋名詞”という構造で表す意味関係を次のようにまとめている。

- (22) a. 表示等同。‘是’前后两部分一般可以互换，意思不变。  
《阿Q正传》的作者是鲁迅 / 鲁迅是《阿Q正传》的作者
- b. 表示归类。名词表示类属，前后两部分不能互换。  
我是北京大学中文系的学生 / 鲸鱼是哺乳动物
- c. 表示特征或质料。‘是’后面的名词一般要有修饰语。‘是’有时可省略。  
这小孩 [是] 黄头发 / 他 [是] 山西人…… / 那两套茶具都是唐山瓷
- d. 表示存在。主语一般为处所词语。‘是’类似‘有’。  
山坡上全是栗子树 / 靠墙是一排书架 / 他满身是泥。
- e. 表示领有。主语限于名词，‘是’类似‘有’，可省略。  
这张桌子 [是] 三条腿 / 我们是一个儿子，一个女儿。
- f. 表示其他关系。  
人是铁，饭是钢（比况） / 角色就这么定吧，你是大春，她是喜儿（扮演）
- g. 主＋是＋动＋的＋宾。肯定某种已实现的情况。‘是’可省略。  
我是昨天买的票 / 他 [是] 用凉水洗的脸

(22d)「存在」と(22e)「領有」は「事象叙述」なので、“(一)个”が必須である。次の場合も同様である。

- (23) a. 门外是一个年轻人。[存在]
- b. 那天夜里我接了个电话，电话里是个女人(\*电话里是女人)，她对我说一个叫凌瑜的女人不行了，住在医院，她的红斑狼疮已经到了晚期，想见我一面。(王朔《玩的就是心跳》) [存在]
- c. 我坐在乔乔的另一边而汪若海坐到了乔乔那一边，这样我对面就不是高晋和许逊而是高洋，高洋旁边也不是卓越而是一个陌生人(\*是陌生人)。(同上) [位置]
- (24) 有时他在街上行走的不同少女脸上会依稀发现她的特征和神情，这往往使他暗暗一怔，但再细端详，那神情似又不翼而飞，面对他的只是个陌生少女>(\*是陌生少女) (王朔《我是你爸爸》)。[存在]

(24) は「分裂文」であるが、主語 NP “～的” が「役割」にあたるので、述語 NP は実体を求めるのが普通である。

“是”構文が表す意味関係を次のように整理できると考える。

- (25) a. 存在・位置・領有 [事象叙述]
- b. 同一関係(等同) [事象叙述]
- c. 帰属・類別(归类) [属性叙述]
- d. 属性・特徴・関係(特征或质料) [属性叙述(外的特徴/内的特徴)]

(25a) を除いて、一般的に、主語 NP が「値」にあたる場合、述語 NP は「帰属」や「属性」を表し、主語 NP が「役割」にあたる場合、述語 NP は実体(同一関係)を表す。ただし、その判別は文脈に依存することが多い。

#### 4. 2. 構文機能

西山佑司（2003:122）では、日本語の名詞述語文を次のように分類している。

	「AはBだ」	「BがAだ」
1.	措定文 「あいつは馬鹿だ」	
2.	倒置指定文 「幹事は田中だ」	指定文 「田中が幹事だ」
3.	倒置同定文 「こいつは山田村長の次男だ」	同定文 「山田村長の次男がこいつだ」
4.	倒置同一性文 「ジキル博士はハイド氏だ」	同一性文 「ハイド氏がジキル博士だ」
5.	定義文 「眼科医（と）は目のお医者 さんのことだ」	
6.		提示文 「特におすすめなのがこのワ インです」

坂原茂（1990）では、上記の「措定文」を「記述文」とし、「倒置同定文」を「属性同定の記述文」として、「記述文は既知の対象への単なる属性の付加であったが、属性同定の記述文は未知の対象の新たな定義付けや分類を表す。この時、日本語では「Aというの  
はPだ」という引用形式が使われる」としている（坂原茂 1990:41）。

- (26) —— 太郎というのはだれですか。  
 —— 太郎というのはA工業の社長の秘書です。（坂原茂1990:42）

しかし、(10) のような述語 NP が「不定個体」を表す同定文は、西山（2003）が扱った「倒置指定文」と「倒置同定文」のいずれにも該当しないようである。

- (27) a. 幹事は誰ですか。（倒置指定文）  
 —— 幹事はA工業に勤めている（某）社員だ。  
 ?A工業に勤めている（某）社員が幹事だ。  
 b. 太郎というのは誰ですか。（倒置同定文）  
 —— 太郎というのはA工業の勤めている（某）社員だ。  
 ?A工業に勤めている（某）社員が太郎だ。

(27a) と (27b) は主語 NP（役割）と述語 NP（実体）との「同一関係」を求めるので、述語 NP は実体を提示する必要がある。その際、「特定個体」と「不定個体」のいずれも可能であるが、「特定個体」の場合は、主語と述語の入れ替えが可能なのに対し、(27) の「不定個体」の場合は、主述語の入れ替えが不自然である。

中国語では、述語 NP が不定個体を提示する場合、“(一) 个”が必要であり、また、主語と述語の入れ替えもできない。

- (28) 干事是谁? (倒置指定文)  
 —— a. 干事是他。(定名詞句) → 他(就)干事。(特定個体)  
 —— b. 干事是 A 公司的一个职员。(不定個体)  
       ?A 公司的一个职员(就)是干事。
- (29) (你说的) 太郎是个什么人? (倒置同定文)  
 —— a. 太郎(就是)是 A 公司社长的秘书。(特定個体または唯一対象)  
 —— b. 太郎是(?就是) A 公司的一个秘书。(不定個体)  
       ?A 公司的一个秘书(就)是太郎。

## 6. 記述文(措定文)における“(一) 个”

### 6.1. 類と個

大河内康憲(1985)では、裸の名詞は「類別」と「特定対象」を表し、“(一) 个 NP”は個別で「不定」の対象を表す、と指摘している。

類名詞はふつう「非有界」とされているが、「有界」と「非有界」はあくまで相対的なものである。類名詞は、構成メンバーの内部区分や属性の均質性などの点では「非有界」であるが、他の類との対照では「有界」である。そのため、類名詞は「内部区分」に用いられるか、「他の類との対照」に用いられるかによって「有界」と「非有界」に分かれる。

“S 是 NP”において、NP は「他の類との対照」または「特定対象」を表す場合、いずれも「定名詞句」の性格を持っている。

- (30) a. 他是老师 (不是学生)。[“老师”は類を表す]  
       述語 NP は他の類との対照では定名詞句で「有界・排他」的な属性叙述  
 b. (这里有老师和学生) 他是老师, 他们是学生。[“老师”は特定個体を表す]  
       述語 NP は定名詞句で、「有界・排他」的な事象叙述

裸の類名詞は上記の意味関係では“(一) 个”を伴うことはできない。

“(一) 个 NP”は「有界」の「不定個体」を表し、「同類の他の個体」の存在を前提としているので、「非排他」的な性質を持っている。

- (31) a. 村支书是(一) 个年轻人。 [“村支书”は値解釈]  
       “(一) 个 NP”は「属性づけ」を表し、「不定・有界」である。  
 b. 村支书是(一) 个年轻人。 [“村支书”は役割解釈]  
       “(一) 个 NP”は「対象指示」を表し、「不定・有界」である。

#### 検証

- a.\*他是学生, 我是学生。 同類の並列(非排他の並列)は排斥される。  
 b.他是一类学生, 我是一类学生。 自動的に異なった類と解釈される。  
 c.\*他是(一) 个学生, 我是(一) 个学生。 非対照的な個体なので排斥される  
 d.?他是(一) 个学生, 我是(一) 个老师。 非対照的な個体なので不自然。  
 e.他是学生, 我是老师。 類としての対照・排他の場合是最も自然。  
 -----

類名詞は単純な「属性叙述」を表す場合は「非有界」であるが、他の類との対照では「外部への有界、排他的」な「定名詞句」の性質を持ち、主に名詞の外延的機能を果たしている。それに対して、“(一) 个 NP”も「対象指示」を表す場合は、名詞の外延的機能を果たしているが、「属性づけ」を表す場合は「内部への有界・非排他的」な性質を持っている。

## 5.2. “(一) 个”によるプロトタイプ効果

(31a) と (31b) の境目は曖昧である。(31b) では“一个”が必須(強制的)で、(31a) では非強制的(省略可能)であるが、「習慣(惰性)」的に使用される可能性が考えられる。

(31a) の主語 NP が「値(実体)」にあたる場合、述語 NP は「実体」を求める必要性がなくなるので、名詞の外延的機能が失われ、内包的機能だけが働くことになる。その意味では、“(一) 个”は属性を引き出すためのマーカーへと機能変化が起きている。(安井二美子 2003 が指摘した「属性にアクセスする」機能)

“(一) 个 NP”は、「特定の属性を持つグループ内の不特定のメンバー」であることから、理想認知モデル(ICM)の原則に則り、「当該カテゴリーの属性を持つ中心的(典型的)メンバー」として認知されることになる。つまり、“(一) 个 NP”は、複数ある個体のどれかと特定できないが故に、自動的にそのグループの「中心メンバー」と位置づける、というプロトタイプ効果をもたらすのである。

大河内康憲(1985:4)では、

- (32) 1.他做什么? 他是学生。  
2.他是一个学生, 还很穷。  
3.他是一个学生, 你不能叫去干活。

「〈一个〉を伴う2、3では、後につづく〈还很穷〉〈你不能叫去干活〉で明らかのように、特定の具体的〈学生〉の存在が想定されている。同定する「もの」が現実存在するのである」と指摘している。

「プロトタイプ効果」の観点からいえば、“一个”によって“学生”のプロトタイプとしての典型的な属性が引き出され、その属性との照合で“还很穷”、“你不能叫去干活”との関係を論理的に説明している、と分析できる。

“(一) 个 NP”は、「特定の類」の「不定個体」を表すので、“他是(一) 个学生”では、“他”は、“学生”という特定のグループ属性を持つ、不定個体である「典型的なメンバー」としての性格を得る。これが、杉村博文(2006:18)が指摘した“个”の「激活事物固有的、最为典型的特点和性质(p19)」の機能と考えられる。

百科事典的な知識は膨大で、実際の言語活動では対象を捉える視角に応じて必要な情報だけ引き出される。“(一) 个 NP”は、その文の命題に合わせた属性を引き出すのに機能するので、命題によって引き出された属性が異なるという意味では文脈依存性の高い「臨時的属性」であるが、当該命題にとっては最も典型的で、本質的な属性である。

- (33) a.你向我讨主意, 我向谁讨去! 亏你是个男子汉!  
b.什么上辈子, 谁有上辈子? 亏你还是个大夫, 一点儿也不唯物。  
c.老吴啊, 你真是个书呆子。  
d.杜一民就想这张连萍真是个人才。(杉村博文 2006:19)

(33a) では、“出主意 (アイデアを出す)” という命題において、“男子漢” の「しっかりした考えを持っている」という属性との照合で、話の相手“你”は「ふさわしくない」と判断を下し、(33b) では「“上辈子 (前世)” があるか」という命題において、“大夫” の「科学的に思考を行うべき」という属性から“你”は「医者らしくない」と結論づけている。(33c) と (33d) では、「人々が熟知している、あの典型的な“书呆子”や“人才”だ」と結論づけているのである。

(34) 他说他年轻时曾给某位死去大领导喂过马。小林初次听他讲，还有些兴趣，问了他一些细节，看他一副癩样，年轻时竟还和大领导接触过？但后来听得多了，心里就不耐烦，你年轻时喂过马，现在不照样是个查水表的？(\*是查水表的) 大领导已经死了，还说他干什么？(刘震云《一地鸡毛》)

“他是查水表的”は旧情報にあたるが、“查水表的”の本質的な属性(卑しい身分)を引き出すために“(一) 个”が用いられている。

「作为(一) 个 NP」にも同様な傾向が見られる。

- (35) a. 马林生有些失望，但作为一个书店营业员他又不能拒绝出售任何东西，只能趁势建议：“这还有几本这个人写的其他书，您不想看看么？”(王朔《我是你爸爸》)  
b. 他从不和她争论，尽管他对她已不存在作为一个丈夫必须受点气的义务和职业道德。(同上)  
c. 他掏出自己的干净手绢捂住儿子头上的伤口，这就是他作为一个父亲对受了无辜伤害的儿子所能给予的全部。(同上)

(35b) “丈夫”と(35c) “父亲”は、ここでは「唯一対象」ではなく、世間一般の“丈夫”“父亲”として持つ普遍的な、プロトタイプの属性を表しているので、“(一) 个”が必要がある。

「比喻」を表す場合も同様な傾向が見られる。

- (36) a. 当我再次直起腰，把另一捆杂草抛到田边，我突然觉得我高大了，似乎是一个悲剧式的英雄(\*是悲剧式的英雄)。(张贤亮《男人的一半是女人》)  
b. 小林虽然怪老婆不给自己面子，但人家生气得也有道理，两如倒个个儿，小林也会不高兴。于是除了责备妻子，也怪自己老家不争气，捎带自己让人看不起。老家如同一个大尾巴(\*老家如同大尾巴)，时不时要掀开让人看看羞处，让人不忘记你仍是一个农村人。(刘震云《一地鸡毛》)  
c. 假如我是一个太阳(?假如我是太阳)，我会早早地出来，为庄稼送去温暖、送去阳光、送去营养……。 (中小作文网 2012. 2)

## 6. まとめ

a. “是”構文における“(一) 个 NP”は、“(一个)”と“NP”自身の意味機能および“是”構文の意味関係と構文機能から制約を受けているので、“(一) 个 NP”に対する解釈は意味論と語用論の両方に関わっている。

b. “(一) 个”は物事の「外的特徴」である「数量」を表すので、述語 NP の「外形の特徴」が顕著であるほど“(一) 个”が必要である。

c. 主語 NP が「役割」か「値」かによって“(一) 个 NP”の意味が異なるので、同じ“S 是(一) 个 NP”でも「対象指定」と「属性叙述」という二つの意味関係を表すことができる。前者の場合は“(一) 个”が必須である。

d. “S 是一个 NP”は構造的に「対象指示」を表す「同定文」に由来するので、「属性叙述」を表す「記述文(措定文)」はその機能の拡張と考えられる。その際“一个 NP”は「実体」から「属性」を表すように機能が変わり、“(一) 个”も「実数」を表すことから「非実数」を表すように変わっている。

e. 「属性叙述」を表す“(一) 个 NP”は「典型的個体」を表すというプロトタイプ効果をもたらし、命題に合わせた「本質的」な属性を引き出すのに機能している。

f. 裸の名詞は、単純な「属性叙述」では形容詞に類似した、内包的機能を果たしているが、「他の類との対照」では排他的な定名詞句として働く。その場合、類名詞は外延的機能を果たしていると考えられる。

g. 名詞判断文における述語 NP は外延(「なに」と内包(「どんな」)の二つの側面から説明を行うことができるが、二つの機能が連続的につながっていて、完全に切り分けることはできない。そのため、“是”構文における“(一) 个”は必須の場合と不可の場合を除き、「習慣(惰性)」的に用いられる一面も考えられる。ただしその際、“(一) 个 NP”が本来持っている「実体的・可視的・個別的・外的特徴」などのニュアンスを伴うことになる。

## 参考文献

- 大河内康憲 1985 「量詞の個体化機能」, 『中国語学』 232 号, 日本中国語学会  
坂原茂 1990 「役割, ガ・ハ, ウナギ文」, 『認知言語学の発展・第3巻』 講談社  
邵敬敏 1993 〈量詞の語義分析及其与名詞的双向选择〉, 《中国語文》 第3期  
沈家煊 1995 〈有界与无界〉《中国語文》 第5期, 商务印书馆  
中川正之・李浚哲 1997 「日中両国語における数量表現」, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』 くろしお出版  
呂叔湘主編 1999 《現代漢語八百詞(增訂本)》, 商务印书馆  
張伯江・李珍明 2002 〈“是 NP”和“是(一) 个 NP”〉, 《世界漢語教學》 第3期  
安井二美子 2003 「“是(一) 个 N”の認知言語学的アプローチ」, 『中国語学』 250 号  
橋本永貢子 2003 〈“个”在動賓組合中的功能及語法化〉『現代中国語研究』 第5期, 朋友書店  
杉村博文 2002a 〈論現代漢語“把”字句“把”的賓語帶量詞“个”〉《世界漢語教學》 第1期  
——— 2002b 〈論現代漢語特指疑問判斷句〉《中国語文》 第1期  
——— 2006 〈量詞“个”的文化屬性激活功能和語義的動態理解〉《世界漢語教學》 第3期  
西山祐司 2003 『日本語名詞句の意味論と語用論 — 指示的名詞句と非指示的名詞句』 ひつじ書房  
唐翠菊 2005 〈“是”字句賓語中“(一) 个”的隱現問題〉, 《世界漢語教學》 第2期  
東郷雄二 2005 「名詞句の指示とコピュラ文の意味機能」『指示と照応に関する語用論的研究』(科学研究費補助金研究成果報告書)  
下地早智子 2009 「日本語と中国語のコピュラ文について—指定文の焦点標識としての“就/才”—」《漢日理論語言学研究》 学苑出版社,  
李旭平・齊冲 2009 〈量詞修飾名詞時的双重語義要求—拓撲性和原子性〉, 『現代中国語研究』 第11期, 朋友書店  
王灿龍 2010 〈“谁是NP”与“NP是谁”的句式語義〉, 《語言教學與研究》 第2期

(yaxin@toyo.jp)